



市立池田病院だより

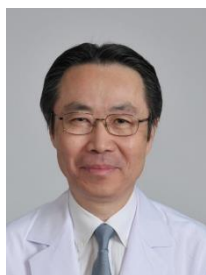
基本理念

創意に富み 思いやりのある 信頼される病院をめざして

第22号

2017年1月発行

新年のご挨拶



新年あけまして
おめでとうございます。

病院長 今井 康陽

2017年、新年あけましておめでとうございます。団塊の世代が75歳以上になる2025年には人口の18%が75歳以上になる、いわゆる2025年問題が次第に迫ってきました。市立池田病院においても、入院患者様の高齢化が進んでいます。この高齢化が進む社会において、地域における急性期基幹病院としての役割を果たすべく、病院機能を益々高めていきます。当院の特色である救急総合診療部を中心に救急診療を更に充実させ、また在宅診療所の先生方とも密に連携して在宅医療を受けておられる患者様のケアにも協力していきます。

専門性の高い先進的な医療にも積極的に取り組んでいきます。がん診療においては、大阪府がん診療拠点病院として、肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がんの5大がん、さらに前立腺がん、腎がん、膵臓がん、食道がん、婦人科がんなどについて腹腔鏡手術を中心とした手術、内視鏡治療、化学療法、放射線治療、緩和ケアと幅広く高度ながん専門診療を行ってまいります。

平成29年4月からは大阪大学との連携で呼吸器外科医の招聘を予定しており、呼吸器内科と協力して池田市および近隣の肺がん患者様を診療できる体制が整います。平成27年度に更新された放射線治療装置は順調に稼働し、前立腺がんの放射線治療も可能となりました。

池田市民の方々が安心して暮らせる地域医療を確立すべく、創意に富み、思いやりのある、信頼される病院を基本理念として職員一丸となって努力していきたいと思っております。

平成29年1月
病院長 今井康陽

日本看護協会は2025年に向け「いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護」を看護のビジョンとして掲げています。

当院においても患者様のために生活を見据えた最善の看護が提供できるように多職種と連携し必要な時に必要な医療・介護・福祉が総合的に提供できる体制強化を目指しています。病を抱えながら暮らしている患者様に対し看護職は一番近くで適切なケアを行い、その人らしい意思決定を支え、住み慣れた地域で最期まで暮らし続けることができるよう寄り添っていきたいと思います。

病院職員一同、誠実に対応してまいりますので、本年もよろしくお願いたします。



看護部長
林 由美

患者さまの権利

- ・ 個人として常にその人格を尊重される権利があります。
- ・ 自分が受ける医療に参加して自ら決定する権利があります。
- ・ 良質な医療を平等に受ける権利があります。
- ・ 自分が受けている医療について知る権利があります。
- ・ 十分な説明を受ける権利があります。
- ・ 診療上の個人情報やプライバシーが守られる権利があります。

大腿骨近位部骨折の治療について

・救急患者の受け入れ

大腿骨近位部骨折とは大腿骨付け根に近い部分（股関節の近く）の骨折です。骨粗しょう症のある高齢者の転倒に伴い起こることが多い骨折の一つで、我が国では年間10数万人が受傷し、高齢化に伴い年々増加しています。骨折を契機に寝たきりになりやすく、多くの場合に早期の手術とリハビリが必要となります。

当院では地域医療の基幹病院として、原則救急患者を受け入れ、緊急入院し、受傷早期に手術を行います。当院での入院期間は手術後2週間程度で、地域連携パスを使用して、回復期リハビリ病院と連携し、転院リハビリをすすめています。

・股関節の治療方法

大腿骨近位部骨折では、大腿骨頸部骨折と大腿骨転子部骨折が大半を占めます（図1）。

大腿骨頸部骨折は血流が悪く骨癒合しにくいいため、骨折部のずれが小さい時には骨接合術を行います（図2）、大きい時には人工骨頭に置換します（図3）。転子部骨折は骨癒合しやすく、骨接合術を行います（図4）。



図1 大腿骨近位部骨折分類

- a 大腿骨頸部骨折
- b 大腿骨転子部骨折

図2.大腿骨頸部骨折
骨接合術

図3.大腿骨頸部骨折
人工骨頭

図4.大腿骨転子部骨折
骨接合術

・股関節治療の実績

	頸部骨折 骨接合	頸部骨折 人工骨頭	転子部骨折 骨接合	計
平成25年	11	34	30	75
平成26年	11	32	36	79
平成27年	18	31	39	88

当院では、外傷の中でも特に大腿骨近位部骨折の受け入れに力を入れており、年々手術件数が増加しています。

4階北病棟の紹介

4階北病棟は整形外科・泌尿器科・耳鼻いんこう科の患者様が入院される病棟です。今回は整形外科入院、骨折の手術についてご紹介いたします。

大腿骨頸部骨折手術を受けられる患者様へ

安心して手術を受けていただくために入院中の経過をご説明しています。また、リハビリを継続して行くために、リハビリ病院への転院や地域の開業医と連携を図っています。

		急性期						回復期					
場所	病院名: 市立池田病院		担当医:		担当看護師:		病院名:		担当医:				
日付	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
日時(手術日・退院日)	手術前日		手術当日		術後1日目		術後4日目		術後7日目		術後14日頃		45日頃
達成目標	神経・循環障害が出ない		麻酔なく手術を受けられる		神経・循環障害が出ない				車椅子移動が安全に行える		設定したリハビリの目標に到達する の日常生活の方法、注意点がCICに出している		退院後
治療・薬剤(点滴・内服)	常用薬継続		点滴		点滴・内服		内服		持参薬を継続		基本的に持参薬のみ		
処置	下肢牽引		洗滌		傷の処置		傷が治癒するまで処置を継続		(基本的には処置はありません)				
検査	採血 レントゲン等		採血 レントゲン		採血		採血 レントゲン		採血 レントゲン		採血 レントゲン		
リハビリ			車椅子移動・リハビリ開始		自己体支・歩行器歩行		退院に向けてのゴールを設定していきます		徒歩行など				
食事	食事・水分摂取可		夜まで食事・水分摂取可		絶食・絶食、術後は許可あれば摂取再開		朝より通常通り		通常通り		通常通り		
清潔	看護師による全身清拭・陰部清拭				傷の状態が良ければシャワー浴				シャワー浴				
排泄	ベッド上排泄・尿の管を挿入、留置		尿の管を抜く		トイレ				トイレ				
患者様及びご家族への説明	地域病院との連携について		手術内容等の説明		術後説明		今後のリハビリテーションの目標 地域病院との連携について		退院後の生活指導		退院の説明、次回診察方法、家庭の改修等につき説明		家庭
退院時情報	【退院時患者状態】		【看護必要項目】		点		【退院時患者状態】						

リハビリの様子

■理学療法

廃用予防の観点から術前はベッドサイドから、術後1日目からリハビリ室で歩行能力の改善を目標にリハビリを行っています。



脱臼に注意しながら
移乗練習をしています



平行棒内歩行練習

■作業療法

関節可動域訓練・筋力強化訓練などに加え、日常生活動作の改善を目標にリハビリを行っています。



浴槽でのまたぎ動作



自助具を用いた靴下の
着脱練習

平成29年1月より肺ドックを開始します！！

肺がんは年間死亡者数のがんの中で最も多く、それは早期発見が困難であるからです。

肺がんは小さくても転移していることがあり、胸部エックス線検査で見つかった時には、すでに進行していることがあります。

肺ドックは、胸部CT検診で小さながんを検出し、転移を起こす前の時期に肺がんを見つけ、適切な治療を行うことができます。

一度は検査をして、ご自分の肺の健康度の確認をお勧めします。

【特に勧められる方】

40歳以上の喫煙者、肺がんが心配な方

【検査項目】

胸部CT（完全予約制）

喀痰細胞診（スモーカーコースのみ）

【日時と費用】

曜日：毎週月曜日午前

時間：1時間程度で終了します

費用：12,000円（税込12,960円）

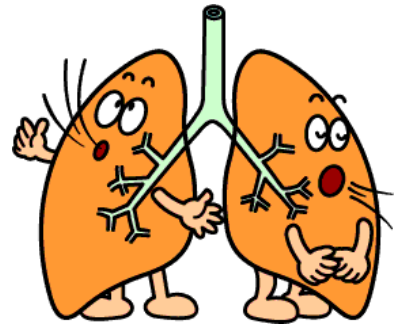
※スモーカーコースは14,000円（税込15,120円）

【お問い合わせ】

当院健診センター（平日午後1時～4時）

電話 072-754-6324までご相談下さい。

検診の結果、異常が見つかり、当院にてその後の治療を行う場合は、当院の呼吸器内科専門医と連携いたします。



食事から風邪を予防

ポイント1)

栄養バランスのよい食事

風邪のウイルスに勝つためにはバランスの良い食事をするのが大切。抵抗力、免疫力を高めるビタミンを意識してとることがコツ！

ビタミンC

免疫力を高める

いちご、みかん、キウイ
フルーツ、ブロッコリー
ほうれん草、
いも類など



ビタミンA

のどや鼻などの粘膜を保護する

にんじん、かぼちゃ、
うなぎなど



ポイント2)

あったかメニューでからだをあたためよう

からだをあたためると免疫力が高まる。

あたため食材

ねぎ、しょうが、にら、
にんにく、
玉ねぎなど



あったかメニュー

鍋、雑炊、うどん、
スープなど



お問い合わせ

ご意見箱を院内に設置しておりますので、病院だより等のご意見ご感想などお寄せくださることをお待ちしております。

〒563-8510 大阪府池田市城南3丁目1番18号
Tel 072-751-2881(代表) Fax 072-754-6374

URL <http://www.hosp.ikeda.osaka.jp>

編集・発行：市立池田病院 広報委員会